

NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013 東京都町田市原町田4-24-6
第66号 発行責任者 石井 章夫

Tel : 042-721-5721 Fax : 042-721-6605
発行日 2023年11月15日

～ 彩りの競演 ～

撮影地：町田ダリア園



引き続き「安心して利用できる」
移送サービスを目指します

理事長 石井 章夫

今年も早いもので、あと二か
月を残すだけとなりました。

「安心して利用できる」移送サー
ビスを目指して始まった今年の
活動も、大きな事故なく順調に
進められています。

町田ハンディキャブ友の会は、
今年創立40周年を迎え、2月
には記念式典「感謝のつどい」を
開催し、新たな活動のスタート
としました。

40周年にあたっては、記念誌
を作成しましたが、さらに記念
事業の一環として「バリアフリー
マップ」のホームページをリニュー
アルすることとしました。

リニューアルすることで見や
すく、利用しやすいホームペー
ジとなりましたので、ぜひご活
用ください。

私たちは、「共に生き、共に
楽しむ」を念頭におき、3つの
活動（安心安全の移送サービス、
町田市バリアフリーマップ運営、
地域福祉のボランティア活動）
を行っています。

この活動を通じてこれからも
「福祉のまちづくりの推進」を
図ってまいりますので、引き続
きご支援ご協力をよろしくお願
いします。

町田市バリアフリーマップのホームページが リニューアルしました。



ドライバーのつれづれ日記



宇野 耕三

ようやく慣れてきたこの仕事もあと半年と思うと、少し残念な気もする。俺はまだやれる、と想着いても、いろいろなところで破綻をきたしてもいるので、やむを得ないのかなと、自戒しているのも事実である。

じゃあ、その後どうしようか、何もしないでいるのも選択肢の一つだが、みるみるうちに体力が衰え、頭がぼけてくるのが見えているので、何かしようと考えた。

昔取った杵柄で、歌でも始めるか、と探していたら、ボランティア募集を社会福祉事業で見つけた。合唱団のお手伝い、これなら歌も歌えるかな。

福祉事務所に出かけて、聞いてみるとなんと視覚障害者の団体だった。家の近くでこのような団体があるなんて知らなかった。「視覚障害者が指揮に合わせてもづれが起きませんか？」それが気になる人はよその団に行ってください。それで入団を決めた。入団2ヵ月で発表会がある。

町田市バリアフリーマップのホームページがリニューアルしました。ホームページでは、トイレの情報を始めとした施設等のバリアフリー情報を掲載しています。また、新しいサイトは、ウェブアクセスシビリティ検査(※)もクリアし、誰もが見やすいホームページとなっています。ぜひご活用ください。

クノロジーが、身体的な障害の有無に関わらず誰もが使用できるように設計および開発されていることを意味します。使用端末や言語、年齢・心身の条件によらず、すべての人が支障なくサイトを利用できるようにすることを指しています。WC4サイトのユニバーサルデザイン、またはWC4サイトのバリアフリー化とも言えます。

活動報告

9月30日(日)、[WneeLog
町田2023秋]が、町田
市生涯学習センターで開催され
ました。参加者は、歩ける人39
名、車いすユーザー9名の総勢
48名で行われました。主催は一
般社団法人WneeLogで、当団体
も運営に協力しました。
参加者は9班に分かれ、生涯
学習センターでの自己紹介・オ
リエンテーションの後、各班ミッ
ションカードを引いて、市内各
所へ街歩きに出かけました。



室内でオリエンテーション

メインミッションは、「芹が
谷公園でポケモンマンモールを
探す」「薬師池公園」「スヌー
ピーミュージアム(南町田グラ
ンペリパーク)」など様々。他
にも「全員車いすに乗る」「車
いすのままトイレに入ってみる」
などのサブミッションもあり、
最終的に各ミッションについて
いるポイントや、アプリでのス
ポット登録数などの総合ポイン
トで競い合いました。今回は電
車やバスなどの公共交通機関も
利用し、より難易度の高い街歩
きとなりました。



バスに乗って街歩き

まとめの振り返りでは、「車
いすに乗ると、目の高さも変わ
り、見える景色が違った」「街
の人が優しくかった」などの感想
も聞かれ、車いすに乗って街歩
きをしたことで、視点が変わっ
た一日となりました。

正会員

阿部 弥生
飯塚 光夫
石井 章夫
井上 廣美
今村 路加
川上 一三
加藤 武生
小竹 金次
境 百合子
下川 満里子
鈴木 正
相馬 恒夫
高橋 鶴子
手塚 直樹
松沢 豊
宮前 武夫
湯川 司
渡部 忠宣
渡辺 宏明
五野 井 博
西村 絢子

利用会員

青沼 由美
我妻 あゆみ
井上 みち子
岩城 ミヤ子
薄井 ヨシ子
内田 芳子
海野 美代子
圓林 かおる
岡田 侃士
尾崎 新
尾渡 諫雄
葛城 正敏
神戸 洋介
栗原 亜紀子
小池 左加江
後藤 利恵
木幡 美恵子
近野 浩一
塩谷 厚
鈴木 淳雄
鈴木 澄子

賛助会員

高梨 和子
田島 隆子
田中 早苗
田中 弘俊
都世子 菊子
徳力 悦子
中川 栄一
中田 さち子
長嶋 優子
富計 佳代子
堀留 辰子
松下 幸子
丸山 奈穂子
宮崎 淑子
牟田 市郎
村上 健
森本 正也
藪崎 哲生
安田 美登里
鷺塚 雪子
ウイズ 町田
なないろ
梅元 三佳
小川 信雄
神谷 聡
後藤 美智子
齋藤 享子
鈴木 賀寿彦
高橋 玲子
土田 由紀子
中村 理
平塚 陽一
武藤 英雄
吉浦 三知子

(敬称略)

年会費のお振込み
ありがとうございました



活動報告

9月30日(日)、[Wheellog 町田2023秋]が、町田市生涯学習センターで開催されました。参加者は、歩ける人39名、車いすユーザー9名の総勢48名で行われました。主催は一般社団法人Wheellogで、当団体も運営に協力しました。

参加者は9班に分かれ、生涯学習センターでの自己紹介・オリエンテーションの後、各班ミッションカードを引いて、市内各所へ街歩きに出かけました。



室内でオリエンテーション

メインミッションは、「芹が谷公園でポケモンマンモールを探す」「薬師池公園」「スヌーピーミュージアム(南町田グラウンペリパーク)」など様々。他にも「全員車いすに乗る」「車いすのままトイレに入ってみる」などのサブミッションもあり、最終的に各ミッションについているポイントや、アプリでのスポット登録数などの総合ポイントで競い合いました。今回は電車やバスなどの公共交通機関も利用し、より難易度の高い街歩きとなりました。



バスに乗って街歩き

まとめの振り返りでは、「車いすに乗ると、目の高さも変わり、見える景色が違った」「街の人が優しかった」などの感想も聞かれ、車いすに乗って街歩きをしたことで、視点が変わった一日となりました。

正会員

阿部 弥生
飯塚 光夫
石井 章夫
井上 廣美
今村 路加
川上 一三
加藤 武生
小竹 金次
境 百合子
下川 満里子
鈴木 正
相馬 恒夫
高橋 鶴子
手塚 直樹
松沢 豊
宮前 武夫
湯川 司
渡部 忠宣
渡辺 宏明
五野 井 絢子
西村 絢子

利用会員

青沼 由美
我妻 あゆみ
井上 みち子
岩城 ミヤ子
薄井 ヨシ子
内田 芳子
海野 美代子
圓林 かおる
岡田 侃士
尾崎 新
尾渡 諫雄
葛城 正敏
神戸 洋介
栗原 亜紀子
小池 左加江
後藤 利恵
木幡 美恵子
近野 浩一
塩谷 厚
鈴木 淳雄
鈴木 澄子

賛助会員

ウイズ町田
なないろ
梅元 三佳
小川 信雄
神谷 聡
後藤 美智子
齋藤 享子
鈴木 賀寿彦
高橋 玲子
土田 由紀子
中村 理
平塚 陽一
武藤 英雄
吉浦 三知子

高梨 和子
田島 隆子
田中 早苗
田中 弘俊
都世子 菊子
徳力 悦子
中川 栄一
中田 さち子
長嶋 優子
富計 佳代子
堀留 辰子
松下 幸子
丸山 奈穂子
宮崎 淑子
牟田 市郎
村上 健
森本 正也
藪崎 哲生
安田 美登里
鷺塚 雪子

(敬称略)

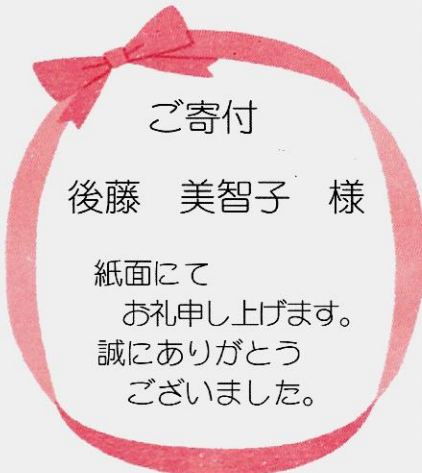
年会費のお振込み
ありがとうございました



◎年未年始の運行について
年未年始は12月30日～1月3
日まで運行がお休みです。
(事務所は12月29日～1月3日
までお休みです)

事務局だより

◎会費納入のお願い
町田ハンディキャブ友の会は、
皆様の会費で運営されています。
今年度の会費未納の方は、お
振込み願います。



ご寄付

後藤 美智子 様

紙面にて
お礼申し上げます。
誠にありがとう
ございました。

シリーズ・ことば

いのち——過ぎた年の祭りの日に。

Nabe。

1人の男。
絶望と孤独のなかで、自虐的なマスターベーションをくりかえしながら、あぁなんという残酷な虚しさ。そこには自らを制御するための塵ほどの救いもなく、ほころんでほつれた糸先ほどの希(のぞみ)もない。やがて男は、光ない弱々しい視線の先に自分のいのちの終わりを模索する。

目の前には、非正規雇用、雇い止め、性的少数者、ホームレス、、、。無限の差別と死への誘(いざな)い。

1人の男
時速60kmで走り続ける、逃れぬことのかなわぬ限られた空間。死。
男はすでに自分の魂をズタズタに切り刻んでしまったことで、さらに鋭利になった刃物とガソリンを携えて大量殺人の幻覚をみる。

10月。
晩秋。
祭り(ハロウィン)の夜である。

行く先の見えぬ闇の中で、人は、哀しく狂乱したこの男のうつろな眼(まなこ)に明日の自分をかさねてみる。

〈世の中は空しきものと知る時いよよますます哀しかりけり〉
万葉集——大伴旅人

《編集後記》

異常に暑かった夏も去り、季節はようやくの秋色です。路傍の樗や水木や沙羅の木や、、、落葉の樹々たちは日ごとにそれぞれの紅葉の色を濃くすることで、限られたいのちへの別れがたい念(おも)いを燃やしているようです。

一面のうす水色のキャンパスの上に優しい表情をみせて横たわる縹雲を見上げながら、埃の舞う雑踏を避けて、一步、民家の連なる路地に入ってみると、垣根越しにあふれているピラカインサの鮮やかな朱色の連なりが、一瞬のはなやかさと長閑さを運んでくれます。

自然とは、厳しくも、なんと不可思議に満ちた風景を紡ぎだしてくれるものかと、、、。こうして(周年行事などを含めて)なにとなく心せわしなかったハンディキャブでの1年も、やがて静かにその幕を降ろしていきます。

(2023.11月:広報子一同)